

関東平野北西部における中期更新世以降の海岸線の復元

Reconstruction of Paleo-shoreline since the Middle Pleistocene in the Northwestern Part of the Kanto Plain, Central Japan

松島 紘子 [1]; 須貝 俊彦 [1]; 水野 清秀 [2]; 八戸 昭一 [3]

Hiroko Matsushima[1]; Toshihiko Sugai[1]; Kiyohide Mizuno[2]; Shoichi Hachinohe[3]

[1] 東大新領域環境; [2] 産総研 地質情報研究部門; [3] 埼玉県環境科学国際センター

[1] Environmental Studies, KFS, UT; [2] Institute of Geology and Geoinformation, GSJ/AIST; [3] Center for Envir. Sci., Saitama

関東平野内陸部では、中部更新統が上部更新統～完新統下に埋没するため、詳細が不明である。近年、関東平野北西部においてボーリングコアの解析による中部更新統の層序研究が蓄積されつつある（中澤・中里，2004，松島ほか，2006）。著者らは関東平野北西部で掘削された2本のオールコアボーリング（吹上コア；173.20m，行田コア；600.00mのうち220.00m）を解析し、海洋酸素同位体ステージ（MIS）に基づいた層序を組み立てた。さらに周辺のボーリング資料から地質断面図を作成し、海成および陸成堆積物の分布を明らかにした。

筆者らは海成層の分布から、中期更新世以降の各間氷期における最大海進時の海岸線を復元した。MIS11およびMIS9では、過去40万年間で最も海域が広がった。MIS7ではMIS11やMIS9より海域は広がらなかった。MIS5ではMIS11やMIS9より海域は広がらなかったが、MIS7よりは広がった。MIS1では過去40万年間で最も海域の広がりが小さく、当時の海岸線は最終氷期に形成された開析谷に沿っている。これは、グローバルな海水準変動に加え、地殻変動や河川活動の影響を受けたと考えられる。

引用文献：

中澤 努・中里裕臣（2005）関東平野中央部に分布する更新統下総層群の堆積サイクルとテフクロロジー。地質学雑誌，111，87-93。

松島紘子・須貝俊彦・八戸昭一・水野清秀・杉山雄一（2006）ボーリングコア解析からみた関東平野内陸部地域の中期更新世以降の地形発達史。月刊地球，28，24-30。